

学会記事

日本きのこ学会第 28 回大会（2025 年度）大会報告

日本きのこ学会第 28 回大会を 2025 年 9 月 2 日～3 日に群馬県高崎市の G メッセ群馬を主会場として開催しましたので、その概要について報告いたします。高崎での開催は、日本応用きのこ学会時代、2003 年の第 7 回大会以来の開催となりました。本大会では、大会実行委員会を、高崎健康福祉大学、宇都宮大学、森産業株式会社、一般財団法人日本きのこ研究所、そして、京都大学と複数の大学と企業のメンバーで構成し、大会運営を行いました。口頭発表会場、ポスター発表会場の 2 会場を設け、対面における発表を基本として、口頭発表会場の様子を Zoom により配信するハイブリット形式により実施しました。

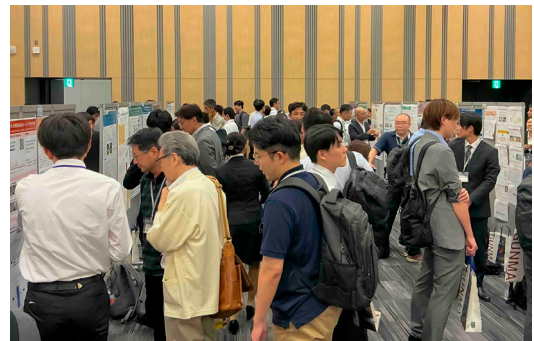
大会参加者数ですが、事前登録参加者 160 名、当日参加者 37 名、招待者や運営スタッフを合わせますと 252 名の参加がございました。研究成果報告数は、学生口頭発表 13 題、一般口頭発表 18 題、ポスター発表 49 題、中学生・高校生による特別発表 2 題と多くの成果報告が行われ、活発な議論が交わされました。その中で学生優秀発表賞及びポスター優秀発表賞の審査を行い、10 題を選定し、表彰しました。

大会 1 日目は、学生口頭発表に始まり、韓国きのこ学会 (The Korean Society of Mushroom Science) 会長の朝鮮大学 (Chosun University) Shin Hyun-Jae 先生をお招きし、特別講演をしていただきました。日本と韓国のきのこ業界における新たな架け橋ができたことと思います。その後、一般口頭発表、そして、ポスター発表と続き、夜には、会場をホテルメトロポリタン高崎に移し、懇親会を開催しました。来賓として高崎健康福祉大学の石田朋靖学長をお招きし、ご挨拶をいただきました。特別講演に引き続き、Shin Hyun-Jae 先生にもご挨拶いただき、乾杯のご発声は、名誉会員の森永力先生に、締めのご挨拶を同じく名誉会員の金

子周平先生にさせていただきました。懇親会のお料理は、森産業さんよりご提供いただいたシイタケ（菌床栽培・原木栽培）、アラゲキクラゲがふんだんに使われており、群馬の美味しいきのこをお楽しみいただけたことと思います。懇親会の途中には、新潟大学の城斗志夫先生より次回大会（第 29 回大会）の案内をしていただきました。次回は新潟で開催されます。次回大会の盛会をご祈念申し上げます。



口頭発表会場での特別講演の様子



ポスター発表会場の様子



中谷会長挨拶



熊倉大会委員長挨拶



懇親会会場の様子



森産業のアラゲキクラゲを使った料理

大会2日目は技術賞・奨励賞の授賞式に始まり、受賞講演、シンポジウム、そして、一般口頭発表を行いました。技術賞は、ホクト株式会社の石川真梨子氏・大内謙二氏・稲富聡氏 他が受賞され、私も栄えある奨励賞をいただくことができました。シンポジウムでは、「新規きのこの栽培化—課題と方向性—」をテーマとして、中澤武氏（一般財団法人日本きのこ研究所）、廣居啓子氏（株式会社ツムラ）、山中高史氏（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所）、そして、成松真樹氏（岩手県林業技術センター）にご講演いただきました。

日本きのこ学会第28回大会における技術賞、奨励賞、学生優秀発表賞及び優秀ポスター賞については以下の通りです。

W1 技術賞

石川真梨子・大内謙二・稲富 聡 他

（ホクト株式会社 きのこ総合研究所）

「ヒラタケ属 (*Pleurotus* sp.) の新種及びその作出方法の開発」

W2 奨励賞

熊倉 慧（高崎健康福祉大学 農学部）

「マンネンタケ抽出物の機能性及びその発現機構に関する研究」

学生優秀発表賞

G1 二野屏匠 宇都宮大学大学院 地域創生科学研究科

「シイタケ成分によって産生が誘導される細菌由来のβ-1,6-グルカナナーゼ」

G6 夏原 稜 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科

「*pkacI* 遺伝子破壊がヒラタケのリグニン分解に与える影響」

G7 小島隼星 京都大学大学院 農学研究科

「ヒラタケの細胞壁合成制御転写因子 Mbp1 及び Swi6 の機能解析と菌糸体マテリアルの物性改変」

G10 中村綾那 大阪公立大学大学院 農学研究科

「バカマツタケの香気成分に関する研究」

優秀ポスター賞

A2 担子菌の発酵能によるチョコレート中のテオブロミンおよびカフェイン含有量の変化について

○福田史織^{1,2}、中田桃歌¹、氏本歩花¹、鮫島由香³、竹本尚未⁴、松井徳光^{1,2}

(¹武庫川女子大・食栄, ²武庫女大院・食栄, ³羽衣国際大・食栄, ⁴梅花女子大・管栄)

P1 廃菌床を活用したシイタケ菌床栽培における各種酵素活性

○佐藤萌々¹、金野尚武²、伊藤梨花²、羽生直人²、小池玲英³、後藤史和³、山内隆弘³

(¹宇都宮大院・地域創生, ²宇都宮大・農, ³北研)

P2 きのこと類の菌糸成長に関する自己消化酵素の解析

○亀山侑一郎¹、羽生直人²、金野尚武²

(¹宇都宮大院・地域創生, ²宇都宮大・農)

P18 シロキクラゲ由来真菌類からの抗クリプトコッカス活性物質の探索

○平野 唯¹、小島裕貴^{1,2}、渡邊善洋^{1,2}、常盤俊之²、大貫由貴¹、野中健一³、菅原章公^{1,2}、岩月正人^{1,2}

(¹北里大・感染制御, ²北里大・大村研, ³帝京科学大学・生命環境)

P21 脱脂米ぬかを活用したエノキタケ菌床栽培用培地資材の開発

○村尾友美¹、城石雅弘²、中野照之³

(¹昭和産業, ²長野県農村工業研究所, ³ポーソー油脂)



技術賞、奨励賞の受賞者

P32 シイタケ成長過程追跡のための機械学習によるシイ
タケ寸法の画像計測法
○小川邦康 (慶應大・理工)



学生優秀発表賞，優秀ポスター賞の受賞者

受賞者の方々，誠におめでとうございます。今後，益々のご活躍を祈念申し上げます。

今大会の2日間は，気温が40度近い酷暑の中で行われたにもかかわらず，多くの方にご参加いただき，盛会のうちに終えることができました。ひとえに会員の皆様のご理解とご協力，そして，団体会員の皆様の広告掲載のご協力の賜物であります。本紙面をお借りして心より御礼申し上げます。また，大会の準備の段階から，お力添えいただきました中谷誠会長をはじめ，理事の皆様，前回大会実行委員の皆様にご御礼申し上げます。最後に，共に大会実行委員を務め，大会事務局を担っていただいた宇都宮大学の金野尚武先生，鈴木智大先生，懇親会，シンポジウムを中心にご担当いただいた森産業株式会社の田村孝史先生，岩本綾先生，一般財団法人日本きのこ研究所の牧野純先生，特別公演にご尽力いただきました京都大学の河内護之先生，会場運営にご尽力いただきました高崎健康福祉大学の岡本健吾先生，辻聡先生，集会担当理事としてお力添えいただきました近畿大学の福田泰久先生，会場の手配等にご尽力いただきました群馬県観光物産国際協会の神田こず恵様，富永麻美様，そして，大会当日にご協力いただきましたボランティアスタッフの皆様に改めて御礼申し上げます。

(第28回大会実行委員長 高崎健康福祉大学 熊倉 慧)